

令和2年度 連携・協力事業の実施状況について

教育課題研究専門部会

【プロジェクト名】 教師力・学校力向上に資する実践研究

1 プロジェクトの目的・概要

佐賀県教育センターの研究の質の向上を図るとともに、教育センターの研究成果を有効に活用して、佐賀大学教員養成課程における教員志望学生の育成の充実を図ることを目的として、連携・協力事業として「教師力・学校力向上に資する実践研究」に取り組む。本プロジェクトを通して、佐賀県の教師力、学校力の向上に資することとする。取組としては、教育センター研究調査事業で取り組んでいるプロジェクト研究等に対して、佐賀大学文化教育学部教員による専門的な見地からの助言を受けるとともに、教育センター研究成果の佐賀大学教員養成課程の講義等での有効な活用を図る。

2 令和2年度の実施状況

(1) 教育センターが令和2年度に取り組んだ研究と連携した佐賀大学教員

教育センターの研究	研究担当所員	連携する佐賀大学教員
小学校国語科教育	原田亮一 今泉幸子	教育学部
中学校国語科教育	高取須賀子 目野登美恵 岩瀬弘憲	教授 達富洋二
小学校算数科教育	福田栄吉 新真一	大学院学校教育学研究科
中学校数学科教育	長野宏顕 石原紳一郎	准教授 米田重和
小学校図画工作科教育	高添比登美	教育学部
中学校美術科教育	古川秀明	教授 栗山裕至

(2) 連携の進め方（図参照）

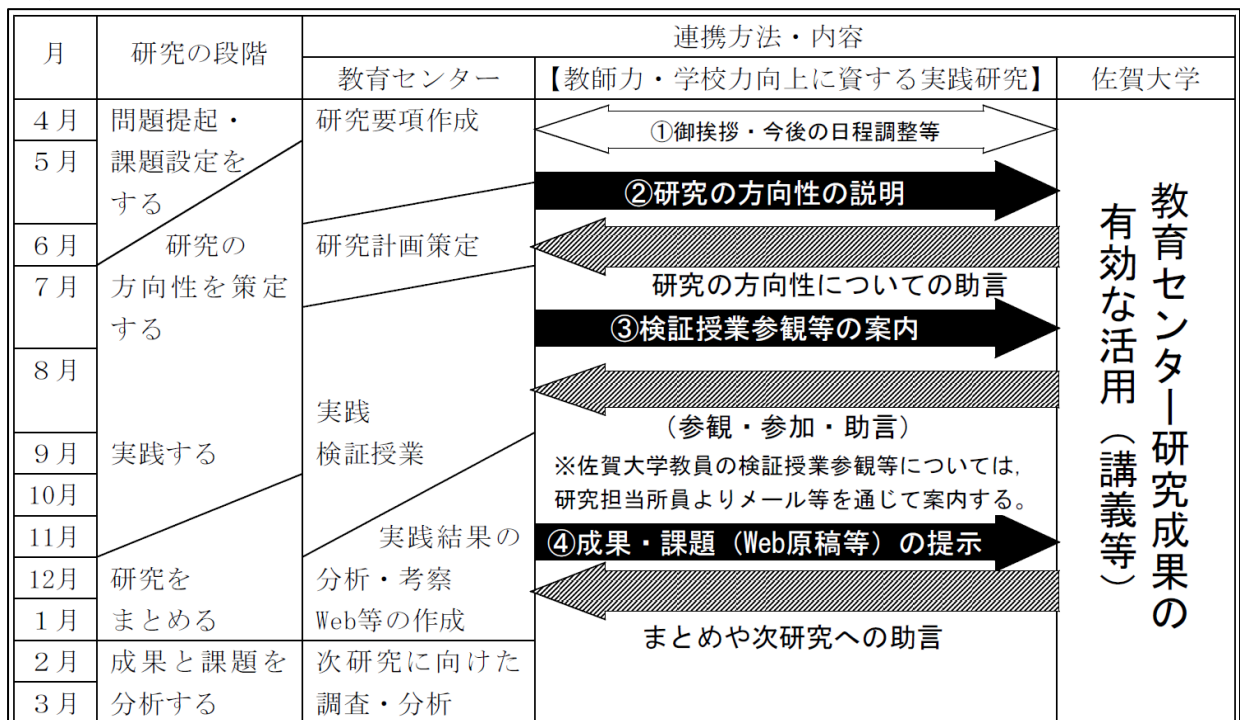


図 教育センターの研究に関する佐賀大学との連携計画

(実施総数)

- ア メールまたは電話による報告，連絡，相談を行う。(R1:38件⇒R2:16件)
- イ 教育センターが実施する研究委員会に佐賀大学教員が参加する。(R1:6回⇒R2:3回)
- ウ 所員が佐賀大学を訪問し，助言を受ける。(R1:9回⇒R2:2回)
- エ 連携する佐賀大学教員から資料等の提供を受ける。(R1:4回⇒R2:6回)
- オ 連携する佐賀大学教員が教育センター研修講座の講師を務める。(R1:13回⇒R2:2回)
- カ 教育センター所員が佐賀大学の授業で講話を行う。(R1:0回⇒R2:0回)

(成果)

- 佐賀大学教員から理論的，専門的な助言を得たことで研究の方向性が明確になり，研究の見通しをもつことができたとともに，研究の質が向上した。また，助言や資料等の提供を受ける機会が，教育センター研究担当所員及び研究委員にとって，有用な研修の場となった。
- 教育センターの研究について，国の指針や新学習指導要領の趣旨を踏まえた助言を頂くことができた。
- 研究委員会へ参加していただいたことで，作成している資料について適宜助言を頂くことができ，各学校の先生方や児童生徒に使ってもらえるコンテンツの発信につながった。

(課題)

- プロジェクト研究においては，年間6回（各研究委員会3回）のコンテンツ配信を行った。今年度は，当初の予定から内容やスケジュールコンテンツについて大きな変更を余儀なくされたため，発信前に佐賀大学教員から意見等を頂くことができない場合もあった。次年度についても，状況に応じて柔軟な御対応をお願いしたい。

3 今後の予定等

- 今年度，複数の研究委員会で効果的な連携を図ることができた。来年度も，佐賀大学教員の専門的な見地からの助言を受け，研究の質の向上に努めたいと考えている。是非，本連携事業を継続してほしいと考えている。